

天草・崎津の歴史

1年 普通科

【テーマ設定の背景】

まず自分たちが天草・崎津について詳しく知らなかったのので、たくさんの人に発信する前に自分たちが学ぶ必要があると考え、このテーマを選んだ。

【仮説】

自分たちが崎津のことについて詳しく調べて知り、たくさんの人に伝えていくことで崎津の魅力を知ってもらえることができる。そうすることで今後天草に来る人が増えると考えた。

【結果】

・崎津集落

崎津集落は、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の構成資産に選ばれている。他にも日本の渚百選、日本のかおり風景百選、日本の重要文化的景観、世界文化遺産に選ばれています。

・崎津諏訪神社

豊漁、海上安全を願い1647年に創設された神社であると伝わっている。

文化2年(1805年)に天草崩れが起き、崎津地区では全体の約72%の隠れキリシタンが摘発された。これまで潜伏していたキリシタンが発覚したため、代官所の役人が諏訪神社で異物の取り調べを行い、境内に設置した箱に自らの信心具を捨てるよう指示して、ここに捨てたものは心得違いとみなされ無罪放免。しかしその人達は絵踏みの回数が増えた。

・崎津教会

1934年(昭和9年)に長崎の建築家・鉄川与助によって建てられたゴシック様式の教会。内部は国内でも数少ない畳敷きで、天井はコウモリ天井となっている。

この場所は禁教期時代に絵踏みが行われていた庄屋役宅の跡地だ。

ハルブ神父が建て替える際にこの場所を懇願し、費用などの面で苦戦したが、実現した。祭壇は絵踏みが行われていた場所に置かれている。

平成30年(2018年)に世界遺産に登録されて、今年で5年目の年となる。

教会は海に面していることから、「海の教会」と呼ばれている。

・カケ

護岸に接する家屋から、海に張り出して設置されている構造物で、竹やシュロを使った漁師の作業場。現在も使われている。

・トウヤ

家屋と家屋の間にある幅約90cmの小路。

漁村の生活に密着した交流の場となっていた。

・ハルブ神父の墓

ハルブ神父は1927(昭和2年)年12月に崎津教会の司祭として着任。

禁教期に厳しい絵踏みが行われていた庄屋役宅跡を買い取り、

現在の崎津教会を鉄川与助とともに建設した。

・墓地

崎津教会付近にある墓地にはキリスト教の墓と仏教の墓が一緒に建っていて、同じ土地にあるのはとても珍しいこと。禁教時代や鎖国時代などに共存した証などと言われている。



【展望】

地元の人たちでも崎津の隠れキリシタンについての歴史を知らない層が増えてきているので、私達の下の方にも語り継いでいきたい。

隠れキリシタンの歴史を途絶えさせないようにしていくことが今後の課題である。

【参考文献・webサイト等】

天草市観光文化部世界遺産推進室(河浦支所内)が作成したパンフレット
天草の崎津集落散策マップ